

村内の四小学校で閉校式

惜しまれつつ終止符



成香小学校で式辞を述べる菊地村長



校旗を菊地村長に返納する洞爺小学校刑部校長



大原小学校では記念モニュメントの除幕式が行われた



思い出とお別れの言葉を述べる香川小学校児童

洞爺村内各小学校が来年度から「とうや小学校」に統合されるため、村内四校の小学校で相次いで閉校式が行われました。

二月十九日に洞爺小学校（刑部守敬校長、児童五十六人）、三月四日に香川小学校（藤田咲美校長、児童十人）、三月十一日に成香小学校（鳥井隆校長、児童十二人）、三月十二日に大原小学校（高丸勲校長、児童十一人）において開催されました。

式典では、児童やPTA、旧教職員、同窓生など関係者が多数参列し、開拓者へ黙祷を行った後、国家斉唱に続き、菊地洞爺村長の式辞、佐々木洞爺村議会議長、羽山胆振教育局長の挨拶、各小学校長の惜別の挨拶が行われたほか、在校児童がステージ前で小学校の歴史や学校生活の思い出、新しい学校で頑張るとの決意を元気に発表して学校に別れ

を告げ、参列者の涙を誘っていました。

参列した皆さんは、長年地域とともに歩み、地域の諸活動の中心となり、心の拠り所となっていた小学校の閉校に深い惜別の想いを胸に刻んでいました。

洞爺小学校は、明治二十五年に虻田尋常小学校向洞爺分校として開校し、明治三十四年に分離独立、昭和二十二年に現名称になり、百十三年の歴史に幕をおろしますが、統合された「とうや小学校」の校舎として、同校を引き続き使用することとなります。

香川小学校は、明治三十三年に仁成香簡易教育所として開校、大正元年に北仁成香尋常小学校、昭和六年に現名称になり、百五年の歴史を閉じます。

成香小学校は、明治三十三年に仁成香尋常小学校として開校し、昭和七年に成香尋常小学校に、昭和二十二年に現名称になり、百五年の歴史を閉じます。

大原小学校は、明治四十年向洞爺尋常小学校特別教授場として開校し、大正六年に二の原尋常小学校に、昭和二十二年に現名称に変わり、九十八年の歴史に幕を下ろします。高台三校の児童は、来年度から「とうや小学校」にスクールバスで通学することになります。

また、式典後は、惜別の会や感謝の会がそれぞれの地域などで催され、出席された皆さんは学校の思い出を語り、名残を惜しんでいました。

なお、大原小学校では、閉校記念モニュメントを製作し、その除幕式も行われました。学校の正門に「人々に深い絆を残し九十八年間の幕を閉じる」とのプレートがはめ込まれ、その横にかつて始業の合図などに使っていた鐘を復元して配置しました。参列した皆さんは、鐘を鳴らして懐かしんでいました。